

支援部だより

堺市立上神谷支援学校

支援部だより No.2

2024.9.2 発行

支援部だより No.2では、外部専門家派遣事業で受けた具体的なアドバイスについて紹介します。今回は、作業療法士（OT）への相談事例の中から低学年児童の事例を紹介いたします。子どもたちの支援・指導には是非ご活用ください。また、支援グッズについても紹介しています。本校にありますのでぜひ活用してください。

作業療法士（OT） 相談内容



- ① **つま先立ち**。歩こうとするとパタパタした走りになる。
- ② **衝動性**（目の前や目に入った人に手を出す、抱きつく、大きな声を出す、など）
- ③ **気持ちの切り替え**（思い通りにならないとパニックになり手が出る）

「OTからのアドバイス」

- ① **つま先立ち**。歩こうとするとパタパタした走りになる



原因：重心を身体の前の方にかけている。そのため歩き方や走り方が前のめりになり、パタパタとなる。階段を降りる時に、腰がひけて一段ずつ降りるのは重心が前のめりで怖さを感じるため。

アドバイス：重心を後ろへ移動していく。「ちょっと重たいもの（椅子など）を持って運ぶ」という運動・

動作は、重心を後ろに移動しないといけないので意図的に取り入れてみるとよい。自分で感覚を感じ取りにくい（感覚鈍麻）ので、このような動作を取り入れることで、自分でも体の動きがわかりやすくなる。

実践：低学年ということもあり、楽しみながら取り組めることを考えて行うことにした。椅子運びについては毎日取り組むこととして、朝の会の時に自分の席からホワイトボード前まで椅子を運ぶことを行っている。

・宅配ごっこ（重い荷物を運ぶ）…単純に重いものを運ぶのではなく、宅配の人に化身して楽しんで重いものを運ぶ活動。

・ゴム紐くぐり…ゴムにあたらないよう膝を曲げて歩くことで、自然に足の裏がつくようになる活動。

・つなひき…うしろに引っ張る必要があるため、重心を後ろにすることができる活動。



- ② **衝動性**（目の前や目に入った人に手を出す、抱きつく、大きな声を出す、など）

実践↓

原因：目についたものに何でも反応しているわけではなく、自分が興味をもったものを選んで行動している。ただ、体の感覚が鈍いため、コントロールが苦手。自分の動きをイメージすることも苦手。そのため、「大きい声」になってしまったり、そっと触ることができずに「抱きつく」ような触り方になってしまったりする。

アドバイス：身体に感覚を入れてあげる対応が良い。「ギュッ」と抱きしめて感覚を充足させてあげる（生活年齢を考慮して行う）。



③ 気持ちの切り替え (思い通りにならないとパニックになり手が出る)

原因：自分の思いを通そうとするのには「自分なりの理由」がある(友だちとのやり取りなど)。「次はこういうことするよ」と自分のすることがハッキリわかる見通しがもてる場面では、ひっかかることはなく動ける。認知の力が高く、理解できていることが多いので、本人がわかるように理解させることが大事。



アドバイス

- ・「言葉で理解する」力がある。運動と言葉を結びつけることを意識して対応するように心がける。言葉を使って自分で動きをコントロールする力をつけていく。例「ゆっくり」「歩く」や「そっと」「置く」など動きの速さや力加減ををわかりやすく言語化して、その通りに一緒にやってみる。
- ・「目で見てわかる」力がある。普段と違うときなど特にわかりやすく視覚的に示すことが有効。

実践

- ・「そっと」「置く」…つみきあそびなど
 - ・「ゆっくり」「歩く」…忍者ごっこなど
- ※実践については2学期以降に取り組み予定



支援グッズの紹介

コミュニケーション VOCA:音声を出力するコミュニケーション機器



トーキングブ릭ス ビッグマック アイトークウィズレベル ゴートーク

他の種類も本校にあります。録音時間等は機器によって違います。磁石で壁につけて使用できるものや首から下げて使用するものなど様々なので、支援の方法にあったものを探してみてください。

タイマー



ダイヤルタイマー

タイムタイマーミニ

メモリタイマー

残り時間が視覚的にわかります。タイマーもいくつか種類があるのでぜひご活用ください。

※物品は貸出可能。本校コーディネーターまでお問い合わせください。